

平成30年度

親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

感想文集

平成30年(2018年)8月5日～6日



原水爆禁止西宮市協議会
西 宮 市

も く じ

感想文集発行にあたって			………… 1
親子広島バスツアーに同行して	西宮市原爆被害者の会	武居 勝敏	………… 2
親子広島バスツアーに同行して	西宮市原爆被害者の会	大高 敬雄	………… 5
親子広島バスツアーに参加して		青木 里歩	………… 7
親子広島バスツアーに参加して		青木 康至	………… 7
親子広島バスツアーに参加して		入谷 悠平	………… 8
広島親子バスツアーに参加して		入谷 珠里	………… 8
親子バスツアーに参加して		内田 強太郎	………… 9
親子広島バスツアーを終えて		内田 さくら	………… 9
親子広島バスツアー ～平和・非核学習の旅～		内田 晃代	………… 9
親子広島バスツアーにさんかして		梅津 潤生	…………10
32年ぶりのひろしま		梅津 加奈子	…………10
「親子広島バスツアー」		神木 空	…………11
親子広島バスツアーに参加して		神木 理恵	…………11
親子広島バスツアーに参加して		小西 りお	…………12
親子広島バスツアーに参加して		小西 香菜	…………12
親子広島バスツアーに参加して		小西 亜矢	…………13
親子広島バスツアーに参加して		清水 悠惺	…………14
親子広島バスツアーに参加して		清水 久美子	…………14
親子広島バスツアーに行って		杉 ほのか	…………16
親子広島バスツアーに参加して		杉 天人	…………16
親子広島バスツアーに参加して		杉 千波	…………16
親子広島バスツアーにさんかして		都築 世璃	…………18
親子広島バスツアーに参加して		都築 誠	…………18
親子広島バスツアーに参加して		中野 愛結佳	…………19

親子広島バスツアーに参加して	味元 尚恵	…………19
「親子広島バスツアー感想文」	馬場 梨愛	…………20
親子広島バスツアー	馬場 月奈	…………20
親子広島バスツアーに参加して	馬場 弓絵	…………21
親子広島バスツアーに参加して	樋口 真乃介	…………22
親子広島バスツアーに参加して	樋口 哲也	…………22
親子広島バスツアーに参加して	樋口 幸太郎	…………23
親子広島バスツアーに参加して	樋口 万希子	…………23
親子広島バスツアーに参加して	藤井 亮利	…………24
親子広島バスツアーに参加して	藤井 芳子	…………24
広島バスツアー	藤岡 慶伍	…………26
広島バスツアー	藤岡 諒	…………26
親子広島バスツアーに参加して	藤岡 裕子	…………26
「新しく学んだこと」	三重野 里咲	…………28
親子広島バスツアーに参加して	三重野 雅美子	…………28
恐怖のリトルボーイ	山口 真成	…………30
親子で貴重な体験に感謝	山口 明美	…………30
親子広島バスツアーにさん加して	山口 伊織	…………31
親子広島バスツアーに参加して	山口 めぐみ	…………31
親子広島バスツアーに参加して	吉川 日向太	…………32
親子広島バスツアーに参加して	吉川 淑香	…………32

表紙絵 / 原水爆禁止西宮市協議会結成 60 周年記念事業 「平和の絵コンテスト」
小学生の部 最優秀作品 (西宮市立広田小学校 6 年生)

【平成 30 年度実施】

感想文集発行にあたって

本市は昭和 58 年 12 月 10 日に「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成 22 年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和 63 年より毎年実施しており、今年で 31 回目を迎えました。

「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列などを通して、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないのでしょうか。

戦後 73 年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんには、この 2 日間で得た経験や思いを多くの方に伝えていただき、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、歩んでいただけることを切に願います。

平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、
わたくしたち西宮市民のみならず、
平和を愛するすべての人の願いです。
そんな平和への願いとはうらはらに、
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの
核兵器を蓄積しました。
核戦争に未来はありません。
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、
持ってもいけないし、持ち込ませてもなりません。
わたくしたちは、
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるとともに、
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、
平和非核都市をここに宣言します。

昭和 58 年（1983 年）12 月 10 日

西 宮 市

平和非核都市マーク



平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年（1984 年）4 月に一般公募し、7 月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

親子広島バスツアーに同行して

西宮市原爆被害者の会 武居 勝敏

あの日から 73 年が経ちました。8 月 6 日午前 8 時 15 分、広島に世界で初めての原子爆弾が投下され、その年に 14 万人もの犠牲者が出ました。街は壊滅し、閃光を浴びた人々はぼろ布のような衣服をまとい焼けて、赤くむき出した腕に垂れ下がる皮膚をぶら下げ、水を求めてさまよいました。そして次々と命を落としていったのです。誰も望みもしない原子爆弾に生死をさまよった被爆者は、何とか生き残ったものの後遺症に苦しみ今も不安な日々をすごしています。二度とこのような悲劇を繰り返してはなりません。

昨年の夏、国連において「核兵器禁止条約」が採択されました。さらに秋には、その採択に貢献をした国際 NGO「ICAN」がノーベル平和賞を受賞しています。今、国際社会は「核兵器廃絶」に大きく動いています。核兵器をなくすことは、人類共存への最優先課題です。しかし、今もなお世界には 14,000 発以上の原子爆弾が保有され、4,000 発は即発射体制にあると言われています。今ある原子爆弾は開発初期の広島・長崎型の 1,000 倍の威力があります。その一発で人類や地球生命を滅亡させる核兵器がなぜ無くならないのでしょうか。人類が作った原爆は人類の手で無くせるはずですか。どうすれば平和が続くのか、戦争をしなくて済むのか、をみなさんとともにこのツアーを通じて考えてみたいと思いました。

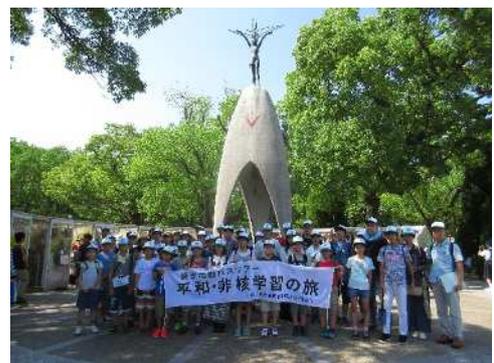
今年で 31 回目を迎える親子広島バスツアーは、8 月 5 日、6 日の 2 日間の平和漬けのツアーです。今年の参加者は 43 名、19 家族と西宮市から 2 名、西宮市原爆被害者の会から 2 名、総勢 47 名です。

今年は西日本豪雨が訪問先である広島や岡山などに大災害をもたらしました。車窓からはくさび型に崩れた山肌が各所に見られ、災害の凄さが感じられます。多くの犠牲者のご冥福を祈りながらのツアーとなりました。

行きのバスでは、自己紹介、被爆体験講話、ビデオ鑑賞などがあり被爆者が折った折り鶴をプレゼントしました。

自己紹介では、参加者から「平和や原爆について知りたい、学びたい、2 日間で何かを持って帰りたい、広島は 2 回目深く学びたい、子供の宿題参加、受験はあるがそれ以上に大切と思って参加した、広島は怖いというトラウマがある、親自身が広島を知らないので学びたい」などの話がありました。みなさん目標を持つての参加です。

平和公園には午後 2 時過ぎに到着、降りた相生橋では川向に立つ原爆ドームが私たち一行を迎えてくれました。早速ツアー開始です。公園内を移動し平和の鐘を横に見ながら原爆の子の像へ行きました。ここでは市民や各自が折った折り鶴を献納し、記念撮影をしました。



原爆の子の像の前での記念撮影

次に元安橋を渡り原爆ドームへ移動しました。外国人の姿を多く見かけます。世界遺産の原爆ドームは、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを後世に訴える唯一のものであるとして、1966年広島市議会は永久保存を決議し保存されました。ここでも記念撮影をし、爆心地の島外科病院へ移動しました。島外科病院上空580mで原子爆弾がさく裂し、爆心直下となったこの一帯は、約3,000度～4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人びとが瞬時にその生命を奪われました。参加者は感慨深げに上空を見上げていました。



原爆ドーム前での記念撮影

続いて平和公園に移動し、被爆アオギリの樹をみて原爆資料館へ入館しました。あいにく本館は改修中で東館のみの見学となりました。外国人の方が多く国際色豊かな館内です。中には先端技術が導入されていてCGによる映像が、戦前の広島街が原爆投下で焼け野原になる様子を映し出していました。私は一組の欧米人と思える中年のご夫婦の横で見えていました。そのご夫婦はお揃いの帽子をかぶっていました。原爆投下で廃墟になった街が映し出されると、二人はそっと帽子をとり胸にあてたのです。ご夫妻の平和を思う率直な気持ちが私に伝って来てその光景は今も脳裏に残っています。

原爆資料館の見学を終え、宿泊先のホテルへ移動。夕食後、被爆体験講話がありました。朗読会では3名のボランティアの方に原爆詩を読んで頂きました。当時のことがぞくぞくと伝わってきます。参加者も全員朗読のあと、自分で選んだ詩を数名の方が心を込めて読みました。不思議な空気が会場を包んでいます。終了後、各自の自由時間となりました。

翌日は食事を終えて6時40分にホテルを出発、7時ごろ平和公園に到着しました。式典に向かう人が続きます。式典会場の周辺は平和への思いや熱気が満ちていました。途中ボーイスカウトやボランティアの方から献花用の花をもらいました。式場のテント下は既に満席の様子。参加者は式典が始まる前に原爆慰霊碑に向かい献花と合掌を行い、被爆者への慰霊と平和を祈念しました。その後は各自で平和記念式典に参列することとし、約半数は猛暑を避けて隣接の国際会議場で中継されるTVを見ての参列となりました。各界を代表して挨拶が続きましたが、最も心に残ったのはこどもの誓いです。市内の小学6年生の男女が心を込めた大きな声で「被爆者の思い未来へ」を最後まで原稿も見ず誓いを述べました。「73年前の事実を、被爆者の思いを、私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります」と結び、私の目は涙であふれていました。誓いを述べた女子6年生は私の母校牛田小学校の新開美織さんでした。

もう一つ心に残ったのは、湯崎英彦広島県知事の異例の挨拶です。その挨拶は、核抑止力の本質は何か。簡単に子供に説明するとすれば、このようなものではないでしょうか。

「いいかい、うちとお隣さんは仲が悪いけど、もし何かあれば、お隣のご一家全員を家ごと吹き飛ばす爆弾が仕掛けてあって、そのボタンはいつでも押せるようになってるし、お隣さんもうちを吹き飛ばす爆弾を仕掛けてある。一家全滅はお互い、いやだろ。だからお隣さんはうちに手を出すことはしないし、うちもお隣に失礼はしない。決して大喧嘩に

はならないんだ。爆弾は多分誤作動しないし、誤ってボタンを押すこともないと思う。だからお前は安心して暮らしていればいいんだよ。」

一体どれだけの大人が本気で子供たちにこのような説明をできるのでしょうか。

良き大人がするべきは、お隣が確実に吹き飛ばすような爆弾に工夫をこらすことなく、爆弾はなくてもお隣と大喧嘩しないようにするにはどうすればよいか考え、それを実行することではないでしょうか。

式典終了後、自由行動になりましたが約半数の方が残り原爆被害者の会の説明を聞きながら平和記念公園の碑巡りをしました。前日からの暑さで熱中症に気を配りながらの碑巡りを終え、原爆ドーム前から路面電車に乗り八丁堀で下車、福屋百貨店でおみやげ物を買、お待ちかねのお好み村で昼食をとりました。本通り商店街を抜け集合場所の平和記念公園まで歩きました。

午後1時、バスは帰路西宮に向けて出発しました。車内で感想を聞くと「戦争や原爆は怖い、平和は大切だ」と口々に答えていました。戦争を知らない世代には73年前の原爆は知っていても古代史に思えるそうです。知らないこと、忘れることは再び過ちを繰り返すことになりかねません。

この度の平和記念式典への参列、広島平和資料館、原爆ドームの見学を通して平和の大切さについて学びました。みなさんは、参加して感じたこと学んだことを周りの方に伝えるメッセンジャーになって下さい。そして平和を作る人になってください。

2日間、みなさんのご協力のお陰を持ちまして無事終了できましたこと感謝申し上げます。



西宮市原爆被害者の会の方による広島平和記念公園内の史跡ガイド
(2日目 自由時間)

親子広島バスツアーに同行して

西宮市原爆被害者の会 大高 敬雄

昨年この親子バスツアーに初めて参加いたしました。原爆二世として1度は原爆忌に参列したいと永年思っていたことが叶い感激したことを覚えております。そして今年2回目の参加。市内の小学校、中学校から抽選で選ばれた19組の方々と西宮市役所を8月5日8時40分に出発いたしました。

山陽自動車道を走り、ほぼ昨年と同じ14時30分頃、相生橋に到着。暑い中、千羽鶴の塔へ折り鶴を奉納し写真撮影をいたしました。塔の周辺は今年も各地からたくさんの方が来ており混雑していた。この後、原爆ドーム、爆心地、記念資料館を観てまわった。今回初めて原爆記念館を観られた方も多かったと思いますが、果たしてどのように感じられたのであろうか？少々気になるところではあった。私は学生の頃初めて原爆記念館を観ました。その頃は被爆遺品、それと写真の展示が中心であった。それでも当時相当な衝撃を受けた事を覚えている。今は写真と映像それにICTを駆使して臨場感とリアル感にあふれていて格段の違いであった。来年にはおそらく新しく改装された記念館本館もオープンするであろう。期待と興味をもっている。

夕方、ホテルへ入り現地のボランティアの方による朗読会が開催された。被爆の体験記・原爆詩、小学生の短い詩には情景、そしていろんな思いがこめられ説得力があり胸が熱くなった。このような朗読をもっと多くの方に体験して欲しいと思う。

8月6日、会場に行く途中、ボランティアの方から献花用の花を受け取りメイン会場に、既に多くの人々でごった返していた。西宮親子広島バスツアー参加者は全員用意されたタスキを着け並んで献花をした。もう少し遅くなると式典が終わらないと献花できなくなってしまうらしい。

8時から式典開始。平和の鐘が鳴り、黙とう、とても厳粛な時が流れた。粛々と式典は進み約1時間で終了した。印象に残ったのはこども代表の平和への誓いであった。「平和とは、自然に笑顔になれること」、「平和とは、人も自分も幸せであること」、「平和とは、夢や希望をもてる未来があること」、この言葉はごく当たり前と思うのですが、73年前、ここ「平和公園」にあった平和な街並みが一瞬にして消えた場所と思うと「平和」の言葉は心に染み入りました。

式典終了後は自由行動の方と平和公園内の碑を巡る方とに別れた。昨年も初めて碑のご案内をさせていただきましたが、昨年はなにせ碑の場所を探しながら拙い説明で、冷や汗ものでした。今年はと少しは知識を吸収して臨んだのでありますが、まだまだ勉強する事が多いと感じました。

12時50分、再度、被爆したアオギリの木の所に全員集合してバスへ。無事広島を後にして帰路となった。18時30分、ほぼ予定どおり西宮市役所前に到着。皆さん出発時と違い表情もほぐれ良い顔をされていると感じた。

さて明治維新から今年で150年になります。明治維新からの77年は戦争、戦争が繰り返され何百万人もの方が亡くなりました。しかし戦後73年間1度も戦争がなく1名の戦死者もない平和の世が続いています。

全国民の70%以上がああ悲惨な戦争、原爆を知らない世代となり、単なる歴史の1ページとして思いこそすれ、原爆に無関心な人々が多くなったのは少々寂しく感じます。原爆投下は73年前、阪神大震災は23年前と考えると決してそう遠い出来事ではないと思うのです。そして悲惨な出来事を決して風化させてはならないと私は思っています。今の平和な世の中を続けていくためにも今回バス旅行を通じて皆さんがそれぞれに感じた事をぜひ周りの方へ伝えてほしいと思っております。1人ひとりの力は小さいですが、多くの人に平和への思いが広がれば大きな力となります。永遠の平和を願って！



出発式での記念撮影

親子広島バスツアーに参加して

青木 里歩

私は今回のツアーで初めて広島へ行き、初めて原爆の事についてくわしく知りました。平和記念資料館で、映像や写真などを見て、本当にこんな恐ろしい事が起こり、何万人もの人が亡くなったということがよく分かりました。そして、とても悲しくなりました。もう二度とこんな辛いことが起こらず、今の平和な暮らしが続いて欲しいと思いました。今回のツアーに参加でき、沢山のことが学べてよかったです。

親子広島バスツアーに参加して

青木 康至

今回、5年生の三女とツアーに参加しました。広島へは何度か訪問したことはありましたが、娘と二人での旅行は初めてで貴重な機会を頂き、大変感謝しております。初日は、原爆ドームや平和記念資料館を訪れましたが、訪れる度に何の罪もない多くの命が何故奪われたのか？と深く考えさせられ、犠牲者のご冥福を心より祈念させて頂きました。翌日の平和記念式典の参列では、早朝にも関わらず世界中から大勢の方々が集まっていました。また沢山の地元のボランティアの方々が、参列者への献花や凍ったおしぼりを配布してくれる等、厳粛な式典の中で、心温まるおもてなしがとても印象的でした。娘と共に歴史を風化させず一人一人の命の尊さを学べた2日間は、一生の記念になりました。最後に、今回引率していただいた西宮市職員の方々、原爆被害者の会の方々に大変お世話になりありがとうございました。今後もこのツアーが継続され、多くの親子が貴重な経験ができることを願っています。

親子広島バスツアーに参加して

入谷 悠平

ぼくが、広島ツアーに行こうと思った理由は、ぼくの小学校の6年生が戦争の事について教えてもらったので、戦争の事についてもっと知りたいなと思って親子広島バスツアーの手紙を使っておうぼしました。去年、親子広島バスツアーにおうぼしたけど落選して少しがっかりしました。どうせ今回も当たらないだろうと思ったけど、当選したよとお母さんが行ってその時ぼくはびっくりしました。とってもうれしかったです。そして、8月5日に広島に行くときが来ました。ぼくはわくわくしていました。広島にとり着いて平和記念公園に行くと大量に、千羽鶴があったのでおどろきました。平和記念資料館に行くと原ぼくが投下される様子からその後の広島の様子が書いてありました。想像するだけでおそろしかったです。資料館や、ろう読会で、戦争や原ぼくでたくさんの命がうばわれたことを知りました。ぼくは平和な日本に生まれて良かったなと改めて思いました。

広島親子バスツアーに参加して

入谷 珠里

私の祖母は広島に嫁ぎ、幼かった母は広島で生まれました。おばあちゃん子だった私は、祖母とたくさん話をしましたが、広島の話、原爆の話はしたがりませんでした。今、思うとそれだけ苛酷な体験をしたからだと思います。そして、いつも「戦争がなかったら違った人生やったねー」とため息をつきながら、遠い目をしていた事を思い出します。

私も子を持つ大人になり、平和な日本を子供たちに引き継ぎたいと強く願うようになりました。そして、広島の現地で資料館や原爆ドームを息子と訪ねたいと思っていました。今回のバスツアーでは、現地の朗読ボランティアさんとの交流も忘れられない思い出となりました。また、引率下さったボランティアガイドさんの車中でのお話や、現地でのガイドもとても勉強になり、感銘を受けました。

今の平和な日本がいかにも、貴重で努力しないといけない事なのかを強く、改めて感じました。年月が経ち、戦争の原体験を語れる方達も減り、風化していく恐ろしさを思うと、子供達に伝聞していく事の大切さを思います。

親子で参加させて頂き、本当に良かったと感謝しています。

親子バスツアーに参加して

内田 強太郎

ぼくは平和記念資料館に行きました。

さいしょはどんな資料館だろうと楽しみにしていました。そして、資料館の中を歩き回ってみたら、いろいろ原爆の写真や昔の原爆ドームの写真がありました。

これから戦争がない平和な世界になるといいなと思いました。

親子広島バスツアーを終えて

内田 さくら

このツアーを終えて私があらためて思ったことは、やっぱり戦争は怖くて、たくさんの大切な命をうばう、ひどい戦いだということです。1日目に行った「平和記念資料館」では、被爆した方々の苦しむ姿の写真や、原子爆弾のおそろしさが書かれた資料などがたくさんおいてあり、とても胸が痛むものばかりでした。

二日目の帰りのバスでタケイさんがまだ世界には、この広島と長崎に落とされた爆弾の1万倍もの核兵器が造られているんだよ、とおっしゃっているのを聞いておどろきました。広島と長崎におとされた原子爆弾だけでもあんなにたくさんの犠牲者がでたのに、これの1万倍以上もの爆弾がもし落とされたら、どうなるのか、おそろしすぎて想像もつきません。

今回はこんな貴重な体験、見学をさせていただきありがとうございました。これからはもっと戦争について学んでいけたらいいなと思っています。二日間お世話になりました。

親子広島バスツアー ～平和・非核学習の旅～

内田 晃代

1945年（昭和20年）8月6日、午前8時15分、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。

広島平和記念資料館には被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料が展示されていました。

親子で参加する事によって、ツアー終了後、家庭内で平和について話す機会が増えました。

今回のバスツアーで一番印象に残った言葉は、「今日の聞き手は明日の語り手」です。

次世代へ必ず伝えていかないといけないとあらためて感じました。

ありがとうございました。

親子広島バスツアーにさんかして

梅津 潤生

ぼくは、親子広島バスツアーにさんかして、げんぼく（リトルボーイ）のおそろしさがよくわかりました。げんぼくにほうしゃ線がふくまれていることをはじめて知りました。

まず、1日目は、2時30分にげんぼくドーム前につきました。

まずさいしょに、おりづるをほうのうしました。つぎに、ぼく心地とげんぼくドームを見にいきました。その次にしりょうかんでてんじぶつを見ました。

そして2日目は、さいしょに平和きねんしきてんに出ました。その後1時までにしゅう時間のあとバスにのって家にかえりました。

この、親子広島バスツアーにさんかしたかんそうは、げんぼく（リトルボーイ）のおそろしさを知ったことです。

32年ぶりのひろしま

梅津 加奈子

広島県の片田舎で育った私にとって、原子爆弾や空襲のことは小学校で何度も映画や紙芝居などで見せられ、戦争は怖い、原爆はダメと恐怖と共に教えられてきた、という思いでした。その後高校進学と共に広島を離れると、他の地域で育った人たちの「8月6日」の意識の薄さに驚き、学校でほとんど学んでない事実におののき、それでも月日がたつにつれ私自身もだんだん薄れていったように思います。

そんな中、子供が小4になり小学校から持って帰ってきたこのツアーのチラシを見て、「これは子供とぜひ参加しなければ！」と思いました。

広島県で育ったとはいえ、広島市からは遠く、広島に根差した親戚等もおらず、ほぼ学校を通じた知識だけだったのですが、今回ひろしまを訪れて、見て、聞いて、触れて、ひろしまの人達が、想像よりもっとずっと自然に、身近に73年前の出来事をとらえていて、その記憶を大事にしていると感じました。自分や友達のおばあちゃんや近所のおばちゃんのおの出来事だから当然なのかもしれませんが、当たり前のように平和の尊さが身に染みているように見え、とても貴重に思えました。

前回小学校の社会学習で訪れた際には、平和記念資料館等の怖さばかりが記憶に残っていますが、32年ぶりの今回は被爆体験記や詩の朗読がとても心に残りました。つらい体験を、思い出すのもつらいだろうに文に残した気持ち、小さな子供が残した言葉に、考えさせられました。

一緒に行った息子は響いているのかいないのか、残念ながら今はよくわかりません。でも、この経験がどこかに根付いていることを願っています。2年後、修学旅行で再びひろしまを訪れる予定なので、より深く感じてくれるのではと期待しています。

最後に、このようなツアーに参加させてくださり、本当にありがとうございました。ぜひ続けていただきたいと思います。

「親子広島バスツアー」

神木 空

ぼくは、人生で初めて広島に行きました。あまり戦争の事には詳しくなくて昔の事はよく分からなかったけど、資料館や朗読会で、どんだけ昔の人はつらかったのか、どんだけ昔の人がたいへんだったかが分かりました。とても勉強になりました。

親子広島バスツアーに参加して

神木 理恵

私は広島にも平和記念公園にも、何度も行った事はあったのですが、いつもただ通り過ぎるだけや、観光気分で、平和について考えながら見て回ったことはありませんでした。

行きのバスの中で、被爆者の方々のビデオを見たりしてから訪れた原爆ドームは大変悲しい物に見えました。資料館で見た展示物は戦争や原爆の恐ろしさを訴えかけていました。平和記念式典で献花した事や、今までテレビでチラッとしか見た事のなかった平和宣言等を身近で全て聞く事が出来たのも、本当に良い経験になりました。ありがとうございました。



原爆の子の像

親子広島バスツアーに参加して

小西 りお

私は、広島にいったげんばくのおそろしさ、こわさを知りました。最初は、げんばくってこわいなと単じゅんに思っていました。

中にも、げんばくでせ中がやけて、ねころがったらせなかがわれてしまうそうです。

その方は去年まで生きていたそうです。

あと世界には、スイッチをおすとげんばくがおち、それが現ざい何こもありますといわれました。

私はもうこんな人々をぎせいにはしたくありません。

8月6日、8月9日の広島の8時15分を大切にしていきたいです。

私は、またげんばくを落とすことにより、人々がくるしみます。詩でもお父さんが亡くなったり、妹が死んでしまったりしていて、私はかぞくがしんでしまうのはいやなので、もうげんばくをおとしたりはしないでと思います。

親子広島バスツアーに参加して

小西 香菜

私は小学校の修学旅行で広島に、中学校の修学旅行では長崎に行って原爆などについて学びました。今回2回目の広島に行くことになりました。小学校の修学旅行で初めて広島に行って原爆資料館を見た時、原爆のあまりの惨さが衝撃的すぎてずっと覚えています。

中学校の頃に長崎に行った時は、爆心地を見たり原爆の像を見に行きました。その時はボランティアの方が説明をしてくれました。そしてその時、最近防空壕が見つかったという事で見に行きました。そこにはほんとに穴が掘られていて初めて見る光景で本当に衝撃的でした。

今回の広島バスツアーは広島と長崎に1度行きましたが、もう一度資料館や記念碑を回ることによって新しい事が知れたらいいなと思い参加させてもらいました。

そして、広島に行くと、記念碑だけでも回りきれないんじゃないかと思うほどたくさんの記念碑がありました。そんなに記念碑があることは記念碑がある以上に原爆で広島は被害を受けたんだということをまた思い知りました。

日本人だけではなく朝鮮人の記念碑なども見に行きました。日本人や朝鮮人の記念碑はありましたが、本当は他の国の人もたくさん被害を受けていたと思います。それほど被害が大きいことがより一層わかったので、もう本当にこんなに人が亡くなり、傷つき、誰も幸せになんてならない戦争はやめるべきだと思いました。

日本は今戦争をしていませんが、外国ではまだ戦争をしている国がたくさんあります。そういう国がだんだんなくなっていくことを願います。

親子広島バスツアーに参加して

小西 亜矢

私は広島へ行くのは初めてでした。中学生の娘の方が私よりも詳しく驚きました。私が子供のころに学校で原爆の恐ろしさは学習しましたが、今回バスツアーに参加させていただき、改めて平和であることの尊さ、恐ろしさを実感しました。また西宮市民と広島市民では原爆に対する在り方がまったく違うのだと感じました。

このバスツアーに参加しなければ、朗読会、平和式典の参加、平和記念公園内の慰霊碑を巡ることはなかったと思います。

今年の夏は例年になく猛暑であり、平和式典には室内モニターで見るということでしたが、私はこの様な機会はめったにないので、子供がいつか大人になった時に平和について思い出してほしいと思い、すごく暑かったのですが、式典には外で参加させて頂きました。

総理大臣や平和宣言を自分の目で見て、感じる事が出来た事は将来忘れられないとても貴重な体験となりました。

その後は平和記念公園内にあるたくさんの慰霊碑を巡る案内をして頂きましたが、ひとつひとつの慰霊碑にはそれぞれの犠牲者の歴史があり、現実では考えられない事が遠い昔に起きてしまった事を知り、とても胸が苦しくなりました。

今の現代日本の社会では平和であることは当たり前になっていますが、73年前は現実とは思えない当たり前が当たり前でない時代だったと、環境や思想が現代では信じられない社会があったのだと痛感しました。

現実では、他国がヒロシマの原子爆弾よりもはるかに強い威力の爆弾を所持しているなどのお話も聞きました。唯一の被爆国である国民の一人として“二度とヒロシマの悲劇は起こしてはならない”と平和への願いを発信していく事が私たちの役割であると思います。

最後にこの旅に参加できたことにお礼を申し上げます。これからも非核学習の旅を続けてほしいです。本当に貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。



折り鶴の奉納

親子広島バスツアーに参加して

清水 悠惺

ぼくは初めて広島に行き、原爆ドームや平和記念資料館等を見学しました。

資料館には、学校の先生が教えてくれた「伸ちゃんの三輪車」という本に出てくる三輪車が展示されていました。ぼくにも3才の弟がいますが、楽しく遊んでいた時に原爆のせいで一瞬で死んでしまうなんて残こくだと思いました。

自由行動の時間、ぼくはお城が好きなので広島城に行きました。敷地の中に被爆樹が何本もあり、近くにいたおじいさんが説明してくれました。広島城の中にも、被爆したお城の部品などが展示されていました。

自由時間、他にも何人かの知らない人が声をかけてくれたりお茶をくれたりしてなぜかと思ったら「平和非核都市西宮」と書いた帽子をかぶっていたからだと思います。そして、僕のような若い人に、戦争のことを知って欲しいのかなと思いました。

今回の広島ツアーのことを、夏休みの宿題の新聞作りでクラスのみんなに紹介したいと思います。

親子広島バスツアーに参加して

清水 久美子

今回「息子の良い経験になれば」と、母親としては一步引いた立場で参加するつもりでしたが、私自身がここまで心を強く揺さぶられる事になろうとは想像していませんでした。73年前の悲劇について、いかに自分が無知であり他人事のように感じていたかを思い知らされました。

書き記したい事は沢山あるのですが、字数制限もあり平和記念式典の事を中心に書かせていただきます。

会場へ向かう際、地元の方と思われるお子さんから大人の方までが歩道脇にズラリと並び、献花用のお花や式典のプログラム等を次々と差し出して来られました。勝手にわからず最初は戸惑いましたが、周りの方の動きを真似て私と息子も一部ずついただきました。また冷たいおしぼりや冷水を配って下さる方々も各所で目にしました。

地元の方々がいかにこの式典を大切にされており、また参加者に対して感謝とおもてなしの心で迎えて下さっていることが次第に伝わってきました。

式典自体は、一緒に参加した息子の疲労具合を考慮して館内のモニターで観せていただいたのですが、普段TVニュース等で観るのとはやはり臨場感が違いました。

安倍首相が挨拶する際、会場から罵声も聞こえ複雑な思いに駆られました。後日私なりに調べてみると、首相のこれまでの言動に、一部の方々が不信感を持たれているであろう事も想像出来ました。

核兵器が世界中に沢山あることは何となく見聞きしており、もし実際に使われたら嫌だ

なあという思いはありました。

でも被爆者の方々はそんな生温い認識ではありません。核兵器が未だ地球上に存在する事自体がとてつもなく恐ろしい事で、いつ誰かの気まぐれな操作で発射したり、何らかの誤作動で放たれるかわからないという危機感を常に持たれています。

しかもその心配は決して自分達の身だけを案ずるのではなく「もう誰にもあんな経験をさせたくない」という、若い世代や他国の人達のことも本気で想って下さっている切なる願いなのだと感じました。

今回のツアーに同行し、沢山の貴重なお話を聞かせて下さった、西宮市原爆被害者の会会長の武居様。

途中子ども達へ輪ゴムを使った手品を披露し、その種明かしややり方も丁寧に教えて下さいました。最初は“硬くなりがちな場の雰囲気や和ませて下さっているのかな”と、それだけでも充分温かいお心遣いだと感謝していましたが、もっと深い意味が込められていたようです。帰りのバスでのお話の中で「これからも、輪ゴム見たらオッチャン達の事思い出してなー」と仰るのを聞いてハッとしました。このツアーに参加させていただいた者の使命として、今回学んだ事を決して忘れてはいけないのだと肝に命じました。

一緒に参加した息子は、資料館で見た展示品やパネル、朗読会での体験記・原爆詩の生々しさに衝撃や恐怖心が先に立ってしまったようで、今は「戦争の話はしたくない」と言います。

でも息子には、時間と共に自分なりに消化し、今回の経験を今後に生かして欲しいと願っています。また親子でも追々振り返り話し合っていきたいです。

この度このような貴重な機会を与えていただいた事に心から感謝申し上げます。

今回お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



原爆ドーム

親子広島バスツアーに行って

杉 ほのか

親子広島バスツアーに行って、とても勉強になったと思いました。なぜかという、こわいと思った話は多かったけど、昔のことがよくわかったからです。せんそうがあったのは知っていたけど、げんしばくだんや、かくへいきのことは、全く知りませんでした。

なので、せんそうのことがより深くわかり良かったと思いました。原子ばくだんのほうしゃせんなどで、苦しむ人を見て、すごくおそろしかったです。だから、原子ばくだんきん止せん言を聞いて良いと思いました。かくへい器が世界で一万本以上もあるのを知ってとてもゾッとしました。もし西宮にきたらと思うと、とてもおそろしい気持ちになりました。今のくらしがとてもめぐまれているのがあらためてわかりました。

そして、何よりひがい者の気持ちを考えるとこわくてたまらなかつたです。

せんそうをなくし、平和の心を広げていきたいです。

親子広島バスツアーに参加して

杉 天人

親子広島バスツアーに参加して自分が知らない原爆について多くのことを知れました。

1日目ぼくは初めて広島に来ました。ここに原ばくがおちたとはとてもおもえませんでした。あれから協力して、努力して、この町を作り上げてきたことが、とても伝わってきました。

1日目に資料館へ行きました。資料館では、原ばくで死んでしまった人の服や三輪車などが展示され原ばくのことは決して忘れてはいけないと改めて思いました。

次に原ばくドームを見に行きました。原ばくドームを見た時はよくたえたなーと思いました。次の次のせだいにも永久に語り継いでほしいです。

今回のことで、原ばくのおそろしさ、非核の大切さ、を知り、ぼくが子どもをもったなら必ず語り継ぎたいと思います。

親子広島バスツアーに参加して

杉 千波

私は、小学校6年生の時、修学旅行で広島へ一度、訪れていました。今回は、小学校4年生の娘が学校からチラシを持って帰って来たので応募し、多数の応募から小学校6年生の息子と3人で参加させていただける事に感謝しながら、暑い道のりをたくさん歩きました。

毎年8月6日は、テレビで見ているだけだったのが73年後の今年、2018年8月6日の「平和記念式典」に初めて、実際に参列する機会に恵まれ、とても貴重な経験をさせていただきました。こども代表のお二人が読み上げた「平和への誓い」は、ゆっくりで、聞きとりやすく、内容も我が子2人もとてもわかりやすかったと思います。私も感動し、気付けば涙が出ていました。拍手も一番、多くされていました。

戦争を知らない世代の私達も、わからない事が多いですが、学習し、ずっとこれからも永遠に核問題、原爆、戦争、平和の事を子供達に伝えていかなければならない！と強く思いました。

式典に参加、献花をするたくさんの外国人をみて、外国人の方の関心の高さにびっくりしました。こども代表のお二人の言われていた通り、世界中の人々が平和について考えて、誓い、未来を考える場所だと思いました。

平和記念公園内碑めぐりでは、本当に知らない事だらけでした。行ってみると、資料には書いていない話も聞かせていただけました。広島市商・造船工業学校慰霊碑前では、全員死亡となっていますが、体調不良でお休みした3人だけが生き残り、73年たった今でも、何故、自分だけ生き残ってしまったのか、と思いながら生きています。今年も言われていたとお聞きしました。自分達以外、270名全員が亡くなってしまったなんて、とても辛かった事でしょう。

2日間、大変勉強になりました。これからもずっとこの「親子広島バスツアー」が続いて、多くの親子が学習できますよう、願っています。

市の方々、被害者の会の方々、その他スタッフの方々に感謝しております。本当に、ありがとうございました。一生、心に残る旅行になりました。



上段のカウント： 広島への原爆投下からの日数

下段のカウント： 最後の核実験からの日数

8月5日平和記念資料館にて

親子広島バスツアーにさんかして

都築 世璃

広島平和記念資料館ではとてもおどろきました。まず初めにおどろいたのは、戦争が七十三年前でそんなに最近だとは思いませんでした。そのつぎにおどろいたのは原しばくだんのこわさです。ばくだんは、当たったら死んじゃうのは知っていたけど、ばくだんの光でも死んでしまうのは、知らなくて、とてもおどろきました。それで、もう二度とせんそうなんて起きてほしくない、と思いました。

親子広島バスツアーに参加して

都築 誠

先日、娘が小学校より頂いて来た、親子広島バスツアーのチラシを拝見し、当選の知らせを頂き参加致しました。

25年前に広島に住んでいたこともあり、また、学生時代被爆した学び舎で授業を受けていたことが、今になっては非常に懐かしく思います。

さて、今回このバスツアーでの主な行事として、被爆体験記朗読会と平和記念式典参加がありました。朗読会では被爆をした方の生々しい悲惨な体験を詩で表現され、当時の死を目の当たりにした壮絶な様子が感じとれ、非常に胸が締めつけられる気持ちになりました。式典での平和への誓いでは、人間は美しいものをつくることができます。人々を助け笑顔にすることができます。しかし恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。広島、長崎への原子爆弾の投下によりこういった思いを強く抱き、平和とは自然に笑顔になれること。平和とは人も自分も幸せであること。平和とは夢や希望をもてる未来があること。苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来を創ろうと懸命に生きてきた広島の人々の思いを強く感じた2日間でした。



平和記念資料館

親子広島バスツアーに参加して

中野 愛結佳

私は、おばあちゃんとのこのバスツアーに参加した理由は、私は六年生になったらもう一度、広島に行くけど、五年生でも一度行って勉強したいと思ってこのバスツアーに、参加させていただくことにしました。

記念資料館に行って思ったことは、とても強力な原子爆弾を落とされたことによって、まだ幼い命がうばわれたということです。

あと、原子爆弾の見えない光線をあびてしまって、命がうばわれたということです。

その後、ホテルに帰って七時ごろからはじまった、出前朗読会の地元のボランティアの方々が、原爆被害のビデオなどを上映してくださって、その当時のことが頭の中で想像できました。

これからは、二度と戦争のない平和が続くようにと願います。

親子広島バスツアーに参加して

味元 尚恵

平成 30 年 8 月 6 日、孫と二人でこのツアーに参加させて頂きました。

初めは、可愛い孫との一泊二日の楽しい旅行気分に参加しました。戦争にも原爆にもあまり興味なく、毎年のニュースにも耳を傾ける事ありませんでした。

しかし広島に行き、語り手の人達の話の聞いたり資料館を見学したりする内に、今のこの幸せが亡くなると思えば背筋が凍る思いになりました。

戦後 73 年経った今でも世界の中では戦争をしている国、核を作る国、歴史の中で繰り返される争い事・・・今回、爆心地を見学し、改めて戦争の恐ろしさ、原爆の脅威を思い知らされました。

日々過ごしている生活、何気ない会話、毎日の仕事、そんな普通の事がすべて失われる。平和で苦勞なく育った私にとっては、想像も出来ないくらい恐ろしいことだと思います。

世界中の人々にもっともっと見てもらいたい。一瞬で消えた町を、たった 1 個の原爆が町を飲み込み人々を消し去ったその事実を。

戦争を経験した人達は皆高齢になっていき、戦争を知らない私達がいかにそれを伝えていくか考えさせられます。

自分達の子供、そして孫達の時代も戦争なき平和な時を過ごせるよう願っております。

「親子広島バスツアー感想文」

馬場 梨愛

親子広島バスツアーに参加してみて私は、つい3ヶ月前ぐらいに修学旅行で行ったばかりで、原爆ドームや、平和記念資料館なども前回行ったけど、あらためてもう一度行ってみたい、すごくおそろしいなと思いました。修学旅行では、宮島も行ったけど、今回は行くことができなかったのが残念だったけど、二日目の自由時間に、おみやげやさんや、ちんちんでんしゃにのって、お好み村など行ったことのないところへつれていってもらえたのでとても楽しかったです。二日目は朝起きる時間がとても早かったです。朝ご飯を食べ終わると、バスにのって平和記念公園へ行きました。8時から平和記念式典があったので外国人の方など、たくさんの方がいました。

私は、はじめての平和記念式典の参加でした。式典が始まると、前で総理大臣などが話しはじめて、とちゅう歌をうたったりもしました。最後の方に広島県内の小学校六年生の二人が男女一人ずつ前にでて、とてもはっきりした声ではきはきと読んで(しゃべって)いたので同じ小学校六年生だと思うと、とってもすごいなと感心しました。私は、あのよなぶたいではとてもきんちょうしてあんなに上手にしゃべれないと思います。

この「親子広島バスツアー」はとてもいいけいけんになったんじゃないかなと思います。

親子広島バスツアー

馬場 月奈

私は今回の親子広島バスツアーで、たくさんを知ったり、色々な体験をさせてもらったりしました。そして、改めて戦争と原子爆弾の恐ろしさ、命の尊さを学びました。二年前、私は修学旅行で広島に行きました。その時は、オバマさんが広島に来るからといって日付がずれました。オバマさん来日後も、資料館や平和記念公園の中には、たくさんの方の人がいました。もちろん日本人の方も、たくさんいました。

私は今回、はじめて平和記念式典に参加しました。前日の2倍以上の方々がいました。とても人が多くてビックリしました。私はけん花という花を置くのをやりました。色々な気持ちでいっぱいでした。たくさん、色々な体験ができたツアーでした。

私が一番心に残った楽しかったことは、自由時間で連れて行ってもらった、お好み村のお好み焼きはとてもおいしかったです。今回は、一店しか行けなかったのが又行くきっかけがあれば行きたいです。

一人一人が一日一日を大切にしないといけないことや罪の無い広島の人達が亡くなってしまったことを私達は一生忘れてはならないと思います。

今回はすごく貴重な体験をありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

馬場 弓絵

今回小6と中2の娘2人と参加させて頂きました。娘2人は小学校の修学旅行で平和公園に訪れていますが、私は行ったことがなかったので、この機会に親子で参加できればいいなと思いました。

バスの中で鑑賞したビデオで西宮市も戦争の被害を受けていることを知り、想像以上の被害に驚きました。

写真でしか見たことがなかった原爆ドームを目の当たりして、改めて原子爆弾の恐ろしさを実感しました。

平和記念公園も元は華やかな街屋だったと聞き、一瞬の出来事で火の海となり、目を覆いたくなる恐ろしい街に変貌し、大切な命を奪われ、家族もバラバラになってしまい、想像を絶する恐ろしい出来事を決して忘れてはならないと思いました。

夜の朗読会で、詩からも原子爆弾の恐ろしさを感じ、学ぶことができました。

平和記念式典で献花に参加し、平和の大切さを改めて感じることができました。

自由行動で平和記念公園内の慰霊碑を巡り、説明を聞きながら、いろんな状況で、それぞれの生活の中で突然起こった恐ろしい悲劇だと改めて痛感しました。

世界中で2度とこのような悲劇が起こらないように、今自分が出来ることを家族で話し合い、それを少しずつ広めて行こうと思います。

このような貴重な経験が出来たこと感謝しています。



地元ボランティアによる被爆体験記朗読会

親子広島バスツアーに参加して

樋口 真乃介

ぼくは広島に初めて行きました
三百羽しか折れませんでした、千羽づるをほうのうした時につるがいっぱいあったのでおどろきました。

原爆くドームは骨組みしかのこってなくてがれきがいっぱいおちてました。

平和しりょう館では見てみたい物がありました。道とくの時間に読んだ本にかいてあった三輪車があるからです。目の前で三輪車を見てさびていてかわいそうでした。

戦争はなくした方がいいと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

樋口 哲也

今回のバスツアーに小学5年生の息子と参加させて頂きました。

今回のツアーに応募したきっかけは私自身広島に行った事がなく、原爆ドームの事は資料や映像でしか知らないの、子供と一緒に直で見てみたいと思い応募しました。

初めて間近で見た原爆ドームには、言葉が出ませんでした。近代的な高層の建物のそばに建っている原爆ドームは、表現が正しくないかも知れませんが、異質、異様な感じがして時が止まってるように思えました。

原爆被害者の会のかたが「この場所はもともと公園じゃなく、公園にするしかなかった。1mほど土を盛って今でも瓦礫や人の骨が埋まっている」と説明して下さった平和記念公園のことや、平和記念資料館で見た爆心地中心に360度つなげた写真を見て、改めて原子爆弾の破壊力の凄さを思い知らされました。

夜の被爆体験朗読会では、多数のかたの体験記や原爆詩が朗読されましたが、特に当時小学3年生の子が書いた詩が印象に残りました。3行という短い詩でしたが、それだけで原子爆弾の恐ろしさが十分伝わる詩でした。

翌日の広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に原爆死没者名簿の奉納がありました。今年度死没者が新たに約3万人増えたと聞いた時、まだ被爆者の方々の戦争は終わってないんだなと思いました。

「今日の聞き手は明日の語り手」と原爆被害者のかたが言っておられましたが、私が小、中学生の頃は戦争体験した人が身近にたくさんいて、色々な戦争体験の話を聞くことができましたが、戦後73年も経つと戦争を経験した人が年々少なくなり話を聞くこともできなくなってきました。だからこそ私たち直で聞いたことがある者が語り継いでいかなければいけないと思いました。

最後になりましたが、このツアーでお世話になった西宮市の職員の方々、原爆被害者の会の方々ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

樋口 幸太郎

親子広島バスツアーに参加してぼくは初めて広島のこわさを知りました。

広島に原爆が落ちたしゆん間人々はどう思ったのか、そして原爆が落ちた後、生き残った人たちはどんな思いだったのか、そしてなぜこの日本の国の広島市だけに原爆を落とさなきゃだめだったのか、ぼくはくやしくてたまりませんでした。

この体験は、きっとわすれません。この日本の歴史をみんなに伝えていきたいです。

親子広島バスツアーに参加して

樋口 万希子

現地に行かなければ感じる事ができないものがあつた。8月6日の暑い夏の日と同じ日に、平和記念式典に参列した事は自分にとって非常に意義深いものとなつた。

原爆はなぜ投下されなければならなかつたか、元々興味があつた。しかしそれは政治的な各国の理由である。一般市民は限られた状況の中で、大人は大人、子供は子供、日々の暮らしや与えられた任務を真面目に、その中でも楽しく営んでいた。そういう何気ない普通の日が始まつた朝だつたのだ。

西宮市原爆被害者の会のガイドお2人に、記念式後に連れて行って頂いた、高等女学校や尋常高等小学校等でも式典が行われていた。大勢の広島市民の命日となつてしまつた日を日本人として忘れてはいけないと思つた。

投下の理由は政治的であっても、その政治を見張るのは、一般市民である。このようなツアーに参加し見識を深めていきたい。

息子は全く何の興味も示していないようだったが、ツアー参加から数日が経ち、偶然観たテレビに、1945年の広島ドラマが、息子の頭の中で点と点が線で結ばれたきっかけとなつた。「これは広島か？」と何回も聞いていたので、今回参加させて頂いた経験が貴重なものになつたと確信している。

被害者の会のガイドのお2人、市役所の同行して頂いた方、暑い中お疲れ様でした。

親子広島バスツアーに参加して

藤井 亮利

僕は親子広島バスツアーに参加しました。

僕が1番印象に残ったのは、平和記念資料館で様々な記録を見学したことです。ひとま
ず見終わって思いました。日本はアメリカの脅威の武力によって、戦争に駆り出された人、
そして一般住民にまで、甚大な被害が及んでいたんだと。でもとにかく僕は、無差別に銃
撃や爆撃によって命を奪っていく戦争をやるべきではないと思った。従って、戦争に反対
します。両国が抱えているいくつもの問題は会議を通して解決すべきだ。

このツアーを通じて戦争、原爆というものの残虐さを身に染みて感じる事ができまし
た。決してやってはならぬ手段なのです。僕は、追悼の気持ちでいっぱいです。僕は、平
和の尊さを深く感じる事ができました。

これからの未来が、世界平和という素晴らしい実情を維持し続けてほしいと強く願いま
す。

親子広島バスツアーに参加して

藤井 芳子

この夏、親子広島バスツアーに参加しました。きっかけは戦争に関心をもっている息子
に現地に行き、実物を見たり、生の声を聞いたりすることで、少しでも感じてくれるもの
があればと思ったことでした

1日目は、まず「原爆の子の像」に出発前に折った千羽鶴に、息子のメッセージを一緒
に添えて奉納しました。その後、原爆ドームや慰霊碑、爆心地である島病院、アオギリ、
平和資料館などをまわりました。夕食後の地元ボランティアさんによる「被爆体験記朗読
会」では、当時の情景が思い浮かぶと同時に、被爆された方々や残された方々の心の叫び
が胸に染み入りました。また参加した子供たちの心のこもった朗読にとっても感心したとと
もに、これこそ「今日の聴き手は明日の語り手」の一步なのだと思います。

2日目は、慰霊碑への献花後、広島国際会議場にて「平和記念式典」に参加しました。
8時15分の黙とうでは、73年前この地に起きた原子爆弾投下と悲惨な事実が脳裏に次々
と浮かび、怒りとともに二度と起こさせてはならない、核兵器の廃絶を強く念じました。
と同時に当時の状況、苦しみや怒りなどを後世にありのままを伝えていく必要性も感じま
した。中でも広島市内の小学生による「平和への誓い」は心打たれるものでした。

式典後の自由行動は、1日目にあまり見られなかったと残念がっていたため、「平和資料
館」をじっくりまわることにしました。焼け焦げボロボロになった遺品や当時の写真、映
像などは胸に突き刺さるものばかりで、原爆の恐ろしさ、酷さを改めて目の当たりにしま

した。

この2日間を広島で過ごさせていただいた経験は、普段何気に過ごしている私たちにとって、平和について考えるきっかけになる貴重な時間となりました。

最後に、お世話になりました原爆被害者の会の方々、市役所職員の方々には心から感謝しております。本当にありがとうございました。



ボランティアから献花用の花を受け取る参加者

広島バスツアー

藤岡 慶伍

ぼくは、広島に一回行ったことがあります。でも宮島にしか行ってなかったので原爆くドームなどには、はじめていきました。

ぼくは、原爆くドームの下にレンガが落ちていたので、それぐらいのいりよくがあったんだとわかりました。

そして原爆くのいりよくをしってから、とても原爆くがこわくなりました。

つぎにしりょう館へ行って原子爆くだんのしくみを見ました。やく14万人以上もの命をうぼうのなら、つくってほしくなかったです。しかし、もう世界には1万機以上あります。

ぼくは、世界から原子爆くだんがなくなってほしいです。

広島バスツアー

藤岡 諒

僕は、広島に一度行ったことがあります。その時は、もっと西側にいったので、原爆ドームや資料館に行くのは、初めてでした。資料館をゆっくり見ていると目をうたがうような文が書いてありました。七十三年前に広島長崎の2カ所に原子爆弾が落とされたことを知りました。そしてその爆弾一つでなんの罪もない人々が広島だけで約十四万人以上が亡くなり、今もくるしんでいる人がいることを知りました。たった一つの爆弾で広島町半径約三キロメートルと約十四万人以上の人の命をいっしゅんにしてうぼう原子爆弾（核）がこの世界にあってはいけないと思いました。今後核が使われることが二度とないようにしてほしいです。

親子広島バスツアーに参加して

藤岡 裕子

今回のバスツアーには、息子二人と三人で参加させて頂きました。

私自身は小さい頃に広島に住んでいて、5歳頃に平和記念資料館を訪れたことはありました。しかし、その時の記憶は幼かった事もあり、只々怖いという事ばかりでした。また、私自身が子供たちに教えてあげられる程の知識もなく、戦争について語り合う事もありま

せんでした。子供たちも戦争については、なんとなく知ってはいるものの、どこか物語的な感じでゲームやアニメと同じような感覚で捉えているような感じがしていて気になっていたので、改めて子供たちと戦争について、核兵器について考える良い機会だと思い、申し込みをしました。

ツアー中はDVDを見て、体験談を丁寧にお話していただきました。被爆体験記や原爆詩の朗読を聞かせていただきましたが、その内容はとても悲惨で、その状況を想像するだけで、涙があふれそうになりました。もし、私が同じ立場だったら耐えられるだろうか、自分の体験を他の人に話すことができるだろうかと思いました。きっと思い出したくもない事のはずです。しかし、多くの方が後世に伝えるためにお話をしてくださっています。その気持ちを無駄にしないためにも、戦争の記憶が薄れていっている今こそ、人々に戦争の怖さと平和の大切さを伝えていかなければならないと強く思いました。

この二日間は親子共に特別な日になりました。お世話下さった、原爆被害者の会の方々と市の職員の方々にお礼申し上げます。



原爆死没者慰霊碑への献花

「新しく学んだこと」

三重野 里咲

私は今回初めて広島に行きました。学校の修学旅行などでまったく行かず、行く機会がありませんでしたが今回行けてうれしかったです。なぜなら、学校で聞いて教科書で知るだけではなく、自分の目で確かめたり、内容をもっと深く知りたかったからです。教科書でもひとつおりの戦争の頃や、原子爆弾の事を知ることができるけど、実際の内容は「戦争が起きた。」「原子爆弾が落ちて多くの人が苦しみ亡くなった。」という簡易なことしか教えられません。だから今回、資料館や平和式典、被爆者の言葉を聞いたり、見たり、参加できてうれしかったです。特に、印象に残っていることは、平和式典の映像を見た時です。また、小学六年生の二人が言った言葉には、心にささるものがありました。まだ、小学生であるのに、こども代表の言葉として、ハキハキと話し、力強い言い方はとても素晴らしいと思いました。

資料館でもいろいろなことを学校で習ったものよりも詳しく学んだり、原爆ドームをまぢかで見たりととても有意義な時間でした。また、機会があればもう一度広島に行きたいです。

今後は今ある日々を大切に過ごし、昔に起きた出来事を戦争を体験したことがない私たちがまた次の世代に教えていくことが、未来への平和の一步だと思います。

親子広島バスツアーに参加して

三重野 雅美子

私自身、戦争については、学生時代に歴史等の授業で学習したり、メディアでの断片的な映像や体験談を見聞きする程度で、詳しく知りたいと思いつつも、広島や長崎を訪れる機会がなくこれまで過ごしていました。また娘も修学旅行等で訪れたりすることもなく、親として戦争や原爆投下の悲惨さについて話をする機会がないままでした。

今回の広島バスツアーでは、同行くださいました西宮市原爆被害者の会のお二人からの身近なお話やバス内での DVD など、授業では習わないようなお話（建物疎開等）を伺ったり、基礎知識を得ることができました。広島に到着してからは要所でいろいろなガイドをしていただき、広島記念公園についてもただ何気なく歩いているその足元が原爆の投下される 73 年前までは営みのある街並みが広がり、市民が幸せに暮らしていた場所だと聞くと大変心が痛みました。

平和記念資料館では、教科書でもテレビの映像や新聞の写真でもない、爆撃を受けた展示品や写真を目の前で見、改めて戦争の恐ろしさや悲惨さについて直に感じる事ができました。また、投下された核爆弾の威力についても改めて詳しく知ることができました。

夜の朗読会では子供たちが戦争によってどれだけ心身ともに傷ついたのかを知り、自分たちがいかに日々平和で幸せに暮らしているかも実感しました。

翌日の平和記念式典では献花でき、また式典にも参加できて感無量でした。特にこども代表のお二人が読まれた『平和への誓い』は涙が出てくるほど、平和への願いを感じました。戦争で犠牲になられた人々の命を無駄にしないよう、これからも日本国民の一人として平和について考え、学び、そして核兵器廃絶への活動を応援したいと思います。

平和記念式典には諸外国から、中高生から大人まで参加されていたことが印象的でした。唯一の被爆国日本だけではなく、海外の一人でも多くの方々が73年前の出来事で見聞きしたことを持ち帰り、自国で平和を願う気持ちを伝え、広めてくれることを願います。

今回参加資格最終学年である中3の娘と参加させていただきましたが、家族で訪問してもこれほどまで戦争について学んだり体験することができないであろう充実した二日間でした。このような機会を頂きましたことに感謝申し上げます。西宮市職員の方、西宮市原爆被害者の会の皆様、ありがとうございました。



平和記念式典の様子

恐怖のリトルボーイ

山口 真成

僕は、この親子バスツアーに行くまでに、戦争の本「はだしのゲン」を全巻読み、はだしのゲンの作者中沢啓治さんによる、被爆した時の実際の広島の様子などを詳しく書いている「はだしのゲン わたしの遺書」という本を何度も読んでいました。広島へ落とされた原子爆弾がリトルボーイという名前が付いていて、長さ3m・重さ4トン、島内科上空数百mでさくれつしたという知識を持って、親子バスツアーに参加する事が出来ました。

本で学んだ戦争の事が頭に浮かびながら、実際の原爆ドームを見ると、あれだけ丈夫そうな建物が破壊されていたり、爆心地からかなり離れた所にいた人も大やけどをしていたり、被害の大きさがとても怖かったです。

親子で貴重な体験に感謝

山口 明美

私は、現在小学生の息子と同じ歳の頃、戦争について学び始めてから図書室に行っては戦争・原爆に関する本を読んでいました。この世の人間同士の争いだと思えない想像を絶する内容や資料写真が、ずっと脳裏に焼き付いていました。これが現実になってしまった事だと受け入れるのにも時間がかかりましたが、子供ながらに「戦争の悲惨さ・無情さ」を胸に刻んできました。

そして今回、大人になって息子と共に広島爆心地や原爆ドームを直接目の前にした時、七十三年前に起きた事・本当にこの地で原爆が投下されてしまった事が、小学生の頃に見た資料写真と重なって見え、とても胸が苦しくなりました。

さらに、平和記念資料館では、私が読んでいた資料集の取り扱いがありました。あの日・あの時、一瞬にして奪われた日本が写し出されている資料に、息子もすぐに見入っていましたが、あまりにも残酷な写真に言葉が出てこなくなったようです。

平和学習の旅、広島で見聞きし学んだ戦争の現実に対し、『人』として向かい合い考えなければいけない問題が、今もなお世界に存在していると改めて実感致しました。

最後になりましたが、【平和・非核学習の旅】に参加させて頂き、親子で貴重な体験が出来ました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

親子広島バスツアーにさん加して

山口 伊織

私は、親子広島バスツアーにさん加するまでは、原ばくのことなど何も知りませんでした。でも、この二日間で原ばくドームや平和記念し料館へ行ってみて、せんそうやかくばくだんのおそろしさを感じてとてもこわかったです。今のなんでもない日じょうが、どれだけ幸せなのかわかりました。

もう二度と、せんそうがおこらないでほしいです。

親子広島バスツアーに参加して

山口 めぐみ

今回、娘と二人で親子広島バスツアーに参加させて頂くことになり、家族みんなで平和への祈りをこめながら折り鶴を折りました。怖がりな娘ですが、いずれは修学旅行や学校などで戦争のことを学ぶと思いますが、今回、実際に広島を訪れ、目と耳で改めて戦争のおそろしさを知ることができ、本当に貴重な体験をさせて頂きました。

同行されたガイドさん方も、とても気さくな優しい方で、子供にもわかりやすく丁寧にお話して下さい、感謝しています。

西宮に住んでいると、なかなか参加できない平和式典も間近で感じることができ、感無量でした。この2日間の経験を踏まえて、これから戦争がなくなる世界を願うばかりです。このツアーに関わった全ての皆様、2日間お世話になりありがとうございました。



平和記念式典の様を広島国際会議場で

親子広島バスツアーに参加して

吉川 日向太

僕が広島に行くのは二度目でした。
二度目でも、原爆ドームや資料館等を見るのは衝撃的でした。
やっぱり平和が一番だと思いました。
このツアーで貴重な経験談や話を聞けたり、色々学ぶ事、感じる事が出来たので参加できて良かったです。
有難うございました。

親子広島バスツアーに参加して

吉川 淑香

息子が学校からツアーのチラシを貰って来た。
ずっと気になっていた広島戦争。
申し込ませて頂き、今回参加出来る事となりました。
広島平和公園に行ったのは、小学六年生の修学旅行以来でした。
小学六年生の時の印象とは全く違いました。
自分達が立っている平和公園の下には、当時のままでその上を埋め立てている事を知り、平和を願って歩かなければならないと思いました。
今回のツアーはガイドさん達のお話もあり、色々考えさせられ、色々な事を知ることが出来たので、本当に有り難い経験となりました。
親子共々貴重な経験が出来、参加させて頂けて良かったです。
この親子広島バスツアーに関わって下さった皆様、本当に有難うございました。



自由時間の記念碑巡り



路面電車に乗っての移動

平成 30 年度 親子広島バスツアー行程表

8 月 5 日 (日)		8 月 6 日 (月)	
8:30	西宮市役所前の「平和非核都市宣言碑」の前で出発式	5:45	朝食
9:00	出発 (バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓	6:40	出発 (バス)
14:30	広島到着 折り鶴奉納 平和記念公園 平和記念資料館 など見学	7:00	平和記念公園に到着
17:00	平和記念資料館 出発	8:00	平和記念式典
17:30	宿舎 (広島ダイヤモンドホテルに到着)	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に平和記念公園内の碑の説明等をしていただきました(希望者のみ)】
18:00	夕食	13:00	集合・出発 (バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓
19:15	地元ボランティアによる出前朗読会 原爆被害の概要(ビデオ上映)、被爆体験記・原爆詩の朗読 など	18:30	西宮市役所前に到着
20:30	終了		



平和非核都市 西宮